

# 事務事業一覧表

施策コード	事業名称	部局名	所属名	シート区分	ページ
13111	保健所施設管理費	保健福祉部	医事業事課	シートA	2
13124	薬局等監視指導事業	保健福祉部	医事業事課	シートA	3
13124	毒物劇物監視指導事業	保健福祉部	医事業事課	シートA	4
13311	急患医療センター運営事業	保健福祉部	医事業事課	シートB	5
13311	在宅当番医・救急医療情報提供事業	保健福祉部	医事業事課	シートA	7
13311	休日診療所運営補助金	保健福祉部	医事業事課	シートB	8
13311	病院群輪番制病院運営事業補助金	保健福祉部	医事業事課	シートB	10
13311	松山市救急医療対策協議会負担金	保健福祉部	医事業事課	シートA	12
13311	小児救急医療支援事業補助金	保健福祉部	医事業事課	シートB	13
13311	小児救急医療確保事業	保健福祉部	医事業事課	シートB	15
13312	救急医療啓発事業	保健福祉部	医事業事課	シートA	17
13321	離島診療連絡船維持管理事業	保健福祉部	医事業事課	シートB	18
13321	患者搬送車維持管理事業	保健福祉部	医事業事課	シートB	20
13321	中島等地域医療確保事業	保健福祉部	医事業事課	シートB	22
13321	産科医等確保支援補助金	保健福祉部	医事業事課	シートA	24
13321	島しょ部航路運賃助成事業	保健福祉部	医事業事課	シートB	25
13323	病院等監視指導事業	保健福祉部	医事業事課	シートA	27
13323	衛生検査所精度管理事業	保健福祉部	医事業事課	シートA	28
13323	医療安全支援センター運営事業	保健福祉部	医事業事課	シートB	29
19999	一般事務費	保健福祉部	医事業事課	シートA	31
21223	災害用医薬品確保事業	保健福祉部	医事業事課	シートB	32

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リーダー名	清水 太郎	担当者名	主任	高谷 陽介	主事	坂本 伶奈
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リーダー名	主幹	担当者名	主任	中矢 皓介	主事	坂本 伶奈

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	13111	保健所施設管理費	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる			重点プロジェクト	-	
施策	健康づくりの推進			主な取り組み	-	
主な取り組み	健康づくり活動への支援		市長公約	-		
取り組みの柱	ライフステージにあわせた健康相談や健康教育などを行うとともに、健康づくりに取り組むための社会環境を整備することで、市民の健康管理を支援します。			-		
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等						

事業の目的(どのような状態にするか)	松山市保健所消防合同庁舎、保健センターの両施設について、市民及び職員が安心かつ安全に利用できる状態を維持する。					
背景(どのような経緯で開始したか)	昭和61年に松山市保健センターが、平成12年に松山市保健所消防合同庁舎が建設されたことに伴い、施設の維持・管理が必要になった。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	松山市保健所消防合同庁舎、保健センター ・保健所内の施設及び公用車の維持管理 ・各施設、設備の保守点検・警備・清掃・総合案内業務委託 ・保健所行事等の調整					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由			
始期・終期(年度)	昭和 61	～	令和 4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費	項	保健所費	目	保健所総務費	R3予算措置時期	当初
									R2年度	R3年度
現計予算額(A)(単位:千円)						49,845		50,419		75,491
決算額(B)(単位:千円)						48,203		49,048		
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳			国支出金			0		0		0
			県支出金			0		0		0
			市債			0		0		7,900
			その他			244		296		253
			一般財源			47,959		48,752		67,338
主な経費(単位:千円) ※R3→決算 R4→予算							委託料:21,384千円 光熱水費:15,282千円 通信運搬費:5,947千円		委託料:46,698千円 光熱水費:15,300千円 通信運搬費:6,374千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等										
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)			1,642		1,371		

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	保健センター水漏れ修繕工事 空調機修繕工事 ブラインド修繕工事					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	年度当初の目標どおり、施設の維持管理を行うことができた。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	市民及び職員が安心安全に施設を利用できるよう維持管理を行えている。			
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	建物及び施設内部の設備について、経年劣化のため各所が傷んでおり、その都度修理を行う必要がある。(電気、外壁、給排水管等)また、令和5年に予定している大規模改修は、平成12年の設置から更新をしていない合同庁舎の空調機更新及び中央監視システムの更新の他、自家発タンク増設工事を検討中である。特に空調機と中央監視システムは、故障の頻度も高く、部品の供給も難しくなっていることから、早急に行う必要がある。		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策	劣化部分を把握し、施設の長寿命化計画に沿った形で優先順位を付けながら、改修や維持管理を行う。		
R4年度の目標	令和4年度に空調等工事の設計委託を行い、令和5年度の工事をスムーズに行えるよう準備する。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)	保健所外壁調査 保健所消防合同庁舎改修工事設計委託(空調機、中央監視システム、自家発タンク、照明器具)		

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業課	担当グループ名	医薬指導担当	連絡先	911-1805	
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リダー名	主幹	宮崎 貞守	担当者名	副主幹 重松 光也
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業課	担当グループ名	医薬指導担当	連絡先	911-1805	
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リダー名	副主幹	宮崎 貞守	担当者名	主査 重松 光也

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	13124	薬局等監視指導事業	事業性質	1-4:自治事務(義務規定あり)	事業区分	1:直営
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる			重点プロジェクト	-	
施策	健康づくりの推進			主な取り組み	-	
主な取り組み	予防医療の充実		市長公約	-		
取り組みの柱	薬局機能の強化や医薬分業を推進するとともに、医薬品などの適正な使用を推進します。			-		
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第4条第1項					
事業の目的(どのような状態にするか)	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性を確保し、保健衛生の向上を図ることを目的とする。					
背景(どのような経緯で開始したか)	保健所設置市となった平成10年度から、医薬品等の安全性確保と適正使用のため、医薬品等販売業監視指導事業として開始。その後、地方分権の推進とともに、市民に身近な薬局開設許可や高度管理医療機器等販売業などの各種限が移譲され、平成17年度からは、薬局等監視指導事業に名称を変え、現在に至っている。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬局、店舗販売業、医療機器販売業等に対し、許可、届出に伴う現地調査及び事務処理を実施</li> <li>・年間薬事監視指導計画に基づき、立入検査(薬事監視)を実施</li> <li>・無承認無許可医薬品、不良不正医薬品、医療機器等や特定販売の広告監視指導を実施</li> <li>・衛生指導総合情報システムにて、薬局等の情報管理を行い、事務の効率化と実効性のある監視指導を実施</li> <li>・市民に対し、市民生活に関連の深い薬の正しい知識について、啓発活動や講座等を積極的に実施</li> <li>・社会問題である「危険ドラッグ」の撲滅に向け、啓発活動や講座等を積極的に実施</li> <li>・薬事経済調査事業の実施</li> </ul>					
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等	「無し」の場合、その理由		
初期・終期(年度)	平成 10	～	令和 4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	
受益者負担の状況	負担の有無		1:有り		「有り」の場合、基準や金額等	
受益者負担の状況	負担の有無		「無し」の場合、その理由		医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律で規定される許可基準、松山市手数料条例	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計		衛生費	項	保健所費	目	保健所総務費	R3予算措置時期	当初
		款	目							
		R2年度				R3年度			R4年度	
現計予算額(A)(単位:千円)						913		901		963
決算額(B)(単位:千円)						710		624		
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳 R4→予算内訳		国支出金		48				47		48
		県支出金		0			0		0	0
		市債		0			0		0	0
		その他		2,332			3,853		4,036	
		一般財源		-1,670				-3,276		-3,121
主な経費(単位:千円) ※R3→決算R4→予算							消耗品費:252千円 負担金:202千円 補助金:153千円		消耗品費:292千円 負担金:253千円 補助金:190千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等							特記事項なし		特記事項なし	
予算執行残額(単位:千円)		(A)-(B)				203		277		

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬局、店舗販売業、医療機器販売業等の許可、届出に伴う現地調査等を実施及び年間監視指導計画に基づき立入検査(薬事監視)を実施</li> <li>・無承認医薬品や特定販売等の広告監視指導の実施</li> <li>・危険ドラッグ相談窓口での相談対応</li> <li>・危険ドラッグ撲滅に向けた啓発活動の実施</li> <li>・地域で出張説明会「くすりと健康」「危険ドラッグは、ダメ。ゼッタイ。」の実施</li> </ul>					
主な取り組み内容の達成度	↓	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	コロナ禍で監視指導計画に基づく監視や医薬品の啓発事業である講習会、説明会が実施出来なかった。その中で、医療提供施設である薬局に対し、通知等によりコロナウイルス感染対策の啓発を実施した。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	本事業の実施により、医薬品、医療機器の品質、有効性及び安全性の確保が出来、市民の健康や安全安心につながっている。			
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	昨年度同様、コロナ禍であり、監視指導計画に基づく監視が困難となっている。また、令和元年12月には医薬品医療機器等法の一部を改正する法律が公布され、令和3年度は認定薬局制度の施行等、薬事を取り巻く状況に大きな変化が起きている。		環境変化,障害,課題等解決のためR4年度で取り組む改善策	コロナ禍においても必要な監視指導を行っていく。監視指導時に法令の順守状況の確認及び周知を図っていくとともに、地域に根ざした医療提供体制等の構築に向け、事業者と協力等を促していきたい。		
R4年度の目標	本事業を継続して行うことで、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性を確保し、保健衛生の更なる向上を目指す。市民向けの啓発目標:年5回程度、広報まつやまに医薬品の適正使用に関する記事を掲載する。事業者向けの指導・啓発目標:薬事監視を190件程度実施する。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬局、店舗販売業、医療機器販売業等の許可、届出に伴う現地調査</li> <li>・年間監視指導計画に基づく立入検査</li> <li>・無承認医薬品や特定販売等の広告監視指導の実施</li> <li>・危険ドラッグの撲滅に向け、各種講座や啓発活動を積極的に進行。</li> <li>・健康サポート薬局制度の円滑な導入を図る。</li> <li>・地域で出張説明会「くすりと健康」を積極的にを行い、医薬品等の適正使用の推進を図る。</li> </ul>		

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	医業指導担当	連絡先	911-1805				
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リーダー名	主幹	宮崎 貞守	担当者名	副主幹	重松 光也		
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	医業指導担当	連絡先	911-1805				
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リーダー名	副主幹	宮崎 貞守	担当者名	副主幹	三好 喜代	主査	重松 光也

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	13124	毒物劇物監視指導事業	事業性質	1-4:自治事務(義務規定あり)	事業区分	1:直営	
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】		笑顔プログラム	個別プログラム	-		
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる			重点プロジェクト	-		
施策	健康づくりの推進			主な取り組み	-		
主な取り組み	予防医療の充実		市長公約	-			
取り組みの柱	薬局機能の強化や医薬分業を推進するとともに、医薬品などの適正な使用を推進します。			-			
総合戦略	基本目標	-					
	政策	-					
	施策	-					
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し				
根拠法令,条例,個別計画等	毒物及び劇物取締法第4条						
事業の目的(どのような状態にするか)	毒物劇物による保健衛生上の危害を防止し、市民の安全安心を確保することを目的とする。						
背景(どのような経緯で開始したか)	地方分権の推進を図るための関係法律の整備等に関する法律(平成11年法律第37号)が、平成12年4月に施行されたことに伴い、毒物劇物販売業に係る権限が保健所設置市へ法定移譲され、本事業が開始。市民に身近な業務上取扱者に関する事務権限も含め、市民の安全と安心を確保するための本市事業として、現在に至っている。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	対象:毒物劇物事業者(一般販売業、農薬用品目販売業、特定目販売業、業務上取扱者)・市民 事業内容:・毒物劇物事業者の登録、届出に伴う現地調査、事務処理を行う。なお、D-GETS(毒物劇物事業者登録等システム)により、厚生労働省に報告する。 ・毒物劇物事業者等に対し、年間監視計画に基づき立入検査(毒物劇物監視)を実施する。 ・愛媛県と合同で農薬危害防止月間に農薬販売店への監視や毒物劇物の大規模事業者への重点監視を行う。 ・毒物劇物に関する漏洩事故や水質事故等の際には、松山市危機管理マニュアルに基づき、担当部署と連携し現地調査を行う。 ・毒物劇物適正管理のため、事業者や市民を対象とした講習会を開催し、周知啓発を図っている。						
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合,基準や金額等 「無し」の場合,その理由	毒物及び劇物取締法で規定される登録基準、松山市手数料条例			
始期・終期(年度)	平成	12	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計		衛生費	項	保健所費	目	保健所総務費	R3予算措置時期		当初
		款	目						R3	R4	
現計予算額(A)(単位:千円)						153			152		151
決算額(B)(単位:千円)						65			41		
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳		国支出金			0				0		0
		県支出金			0				0		0
		市債			0				0		0
		その他			254				261		615
		一般財源			-189			-220		-464	
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算							消耗品費:38千円		普通放費:73千円 消耗品費:64千円 市内放費:10千円		
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等							特記事項なし		特記事項なし		
予算執行残額(単位:千円)		(A)-(B)				88		111			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	・毒物劇物事業者の登録、届出に伴う現地調査等を実施 ・毒物劇物事業者等に対し、年間監視計画に基づき立入検査を実施 ・愛媛県と合同で農薬危害防止月間に農薬販売店への監視や毒物劇物の大規模事業者への重点監視を実施 ・毒物劇物関連調査として、松山市危機管理マニュアルに基づき、担当部署と連携し現地調査を実施 ・毒物劇物適正管理のため、事業者や市民を対象とした講習等啓発を行う。					
主な取り組み内容の達成度	↓	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	コロナ禍の状況に応じた立入検査となったため、年間監視計画に基づいた監視件数は達成できなかった。しかし、県との合同監視や講習等啓発においては、コロナ対策(3密対策)を行いながら実施することが出来た。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	市民の安全と安心を確保するために、重要な事業であるから。			
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	全国的に毒物劇物の紛失、盗難、漏えい事故が発生していることから、毒物劇物取扱施設に対し、継続的に毒物劇物の適正な保管、使用について指導、啓発していく必要がある。		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策	全国的に毒物劇物の紛失、盗難、漏えい事故が発生していることから、毒物劇物取扱施設に対し、継続的に毒物劇物の適正な保管、使用について指導、啓発していく。		
R4年度の目標	年間監視指導計画に基づき、毒物劇物事業者等に対して立入検査を実施し、監視指導や周知啓発を行い、保健衛生上の危害の防止と、市民の安全安心を確保する。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)	・毒物劇物事業者の登録等に伴う現地調査 ・年間監視指導計画に基づく立入検査 ・愛媛県と合同で農薬危害防止月間に農薬販売店への監視や毒物劇物の大規模事業者への重点監視 ・松山市危機管理マニュアルに基づく毒物劇物関連調査		

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804				
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リーダー名	副主幹	清水 太郎	担当者名	主任	中矢 皓介	主任	高谷 陽介
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804				
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リーダー名	主幹	山内 利博	担当者名	主任	高谷 陽介	主査	柏木 康宏

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	13311	急患医療センター運営事業				事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営	
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】				笑顔プログラム	個別プログラム	-			
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる					重点プロジェクト	-			
施策	医療体制の整備					主な取り組み	-			
主な取り組み	救急医療体制の維持				市長公約	112	子育て環境を充実し、子どもたちの未来を応援する松山をつくります			
取り組みの柱	救急医療機関が小児科医や救急勤務医などの医療従事者を確保するための支援を行い、24時間対応の小児救急医療が提供できる体制など、松山圏域3市3町が連携し、安定した救急医療体制を維持します。						中学生までの医療費の無料化を実現します。また、子育て世代包括支援センターの充実や産後ケアの推進、小児救急医療体制の堅持など、安心して出産や子育てができる環境を整えます。			
総合戦略	1331	基本目標	①つながる未来を応援する(少子化対策)			取組み	①小児科医師不足を補うための支援など、救急医療に従事する小児科医師確保のための支援に取り組みます。また、夜間や休日の小児救急医療体制を堅持します。			
		政策	③出会いから子育てまで切れ目のない支援の充実							
		施策	③小児医療の充実							
総合計画の実施計画掲載有無(R3)			1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し					
根拠法令,条例,個別計画等	松山市急患医療センター設置条例、松山市急患医療センター設置条例施行規則									
事業の目的(どのような状態にするか)	年間を通じて夜間の初期救急医療体制を確保するとともに、重症患者については、救急当番医療機関や小児救急医療支援病院への円滑な転院体制を整備することを目的とする。									
背景(どのような経緯で開始したか)	二次救急医療機関に軽症患者が集中し、救急医療体制の維持が困難な状況が発生していたため、市民の安全・安心を守るとともに、医療関係者の疲弊を防ぐことを目的に設置した。									
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	松山市救急医療センターにおいて、夜間の急病患者に対し、応急処置を実施する。									
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り		「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由	使用料等の徴収(健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法律、その他法令の規定に基づく療養、医療等に要する費用の額の算定方法により算定した額)					
始期・終期(年度)	昭和	49		～	令和	4		終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費	項	保健衛生費	目	診療所費	R3 予算措置時期				
									当初				
				R2年度				R3年度				R4年度	
現計予算額(A)(単位:千円)				127,441				214,564				224,073	
決算額(B)(単位:千円)				116,026				199,012					
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳	国支出金			35,148				1,509				0	
	県支出金			1,000				0				0	
	市債			0				0				0	
	その他			79,867				115,171				157,239	
一般財源			11				82,332				66,834		
主な経費(単位:千円) ※R3→決算、R4→予算				報酬:72,109千円 報償費:76,044千円 委託料:17,888千円				報酬:86,919千円 報償費:76,990千円 委託料:18,242千円					
特記事項(単位:千円) ※繰越、補正、流用、事業統合等													
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)				11,415				15,552	

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	松山市急患医療センターの運営										
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下			左記の理由として良かった点、悪かった点など			急患医療センターを安定的に運営し、小児救急医療体制を維持できたため。			
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		本事業の実施により、夜間の急病者への治療を施すことができ、市民に対し、安心を与えている。						
事業の公共性	必要性	1		1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	1		1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない	
R3年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	開業医の高齢化が進む中で、将来的に急患医療センターに出務する医師の減少で、急患医療センターの運営が困難となる可能性がある。				環境変化、障害、課題等解決のため、R4年度で取り組む改善策			将来にわたり松山圏域の小児救急医療体制を堅持するため、松山市医師会、松山赤十字病院、愛媛大学医学部等との連携強化を図るとともに、引き続き、小児科医の確保に向けた具体的な方策等を検討するため、松山市急患医療センター運営協議会等で関係者との協議を行う。			
R4年度の目標	松山市医師会、松山赤十字病院、愛媛大学医学部等と連携を深め、急患医療センターの運営を含めた小児救急医療体制の安定的継続を目指す。				R4年度の主な取り組み内容(予定含む)			引き続き急患医療センターの安定的な運営を行う。			



【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	急患医療センターを365日安定的に運営する体制	%	目標値	100	100	100	100	100	目標値	現状維持	
			実績値	100	100	100	100	100	達成年度	—	
		%	達成度	100	100	100	100				
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)									
	本指標の設定理由	全国的に医師不足が深刻化する中、市医師会等の協力により、夜間における小児科診療を毎日行い、松山市医療圏の救急医療体制を堅持する。これにより、夜間における発熱等の小児患者に医療サービスを提供することを目標とする。				最終目標値の設定の考え方		現状維持を目標値とする。救急医療体制を継続して維持する必要があるため、達成年度は設定しない。			
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類										
	本指標の設定理由					最終目標値の設定の考え方					
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
	%	達成度									
指標の種類											
本指標の設定理由					最終目標値の設定の考え方						
成果指標 (3つまで設定可)	小児の夜間急病について365日救急医療を受けられる体制	%	目標値	100	100	100	100	100	目標値	現状維持	
			実績値	100	100	100	100	100	達成年度	—	
		%	達成度	100	100	100	100				
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)									
	本指標の設定理由	夜間の急な発熱等の小児患者に、医療サービスを提供し、症状の悪化や重症化を防ぐ小児救急体制の維持を目標とする。				最終目標値の設定の考え方		現状維持を目標値とする。救急医療体制を継続して維持する必要があるため、達成年度は設定しない。			
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類										
	本指標の設定理由					最終目標値の設定の考え方					
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
	%	達成度									
指標の種類											
本指標の設定理由					最終目標値の設定の考え方						
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	松山市医師会、松山赤十字病院、愛媛大学医学部等の協力のもと、小児科は毎日、内科は月曜日から土曜日(1月1日は除く)に診療を行っている。									
	成果指標	小児科は、毎日21:00～翌8:00まで診療を行うことで、患者及び保護者の夜間の急病による不安を解消し、安心して子育てができるまちづくりに寄与している。									
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リーダー名	副主幹	清水 太郎	担当者名	副主幹	柏木 康宏	
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リーダー名	主幹	山内 利博	担当者名	主査	柏木 康宏	主任 高谷 陽介

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名 (施策コード)	13311	在宅当番医・救急医療情報提供事業				事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	2:委託		
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】				笑顔 プログラム	個別プログラム	-				
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる					重点プロジェクト	-				
施策	医療体制の整備					主な取り組み	-				
主な取り組み	救急医療体制の維持				市長公約						
取り組みの柱	救急医療機関が小児科医や救急勤務医などの医療従事者を確保するための支援を行い、24時間対応の小児救急医療が提供できる体制など、松山圏域3市3町が連携し、安定した救急医療体制を維持します。										
総合戦略	基本目標	-				取組み	-				
	政策	-									
	施策	-									
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)		2:無し							
根拠法令,条例,個別計画等											
事業の目的 (どのような状態にするか)	休日の眼科の一次救急を確保する。										
背景 (どのような経緯で開始したか)	医師会が行っていた在宅当番医制が救急医療対策実施要綱により国庫補助対象となったことを受け、昭和52年から実施している。										
対象・事業内容 (誰に対して、何をするのか)	・眼科の急病患者 ・松山市医師会に委託し、休日の在宅当番等の事業を実施する										
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない		「有り」の場合,基準や金額等 「無し」の場合,その理由							
始期・終期(年度)	昭和	52	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期				

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費	項	保健衛生費	目	診療所費	R3予算措置時期	
									当初	
				R2年度			R3年度			R4年度
現計予算額(A)(単位:千円)				7,511			7,511			7,511
決算額(B)(単位:千円)				7,511			7,511			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金			0			0			0
	県支出金			0			0			0
	市債			0			0			0
	その他			0			0			0
	一般財源			7,511			7,511			7,511
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算							役務費81千円 委託料7,430千円		役務費81千円 委託料7,430千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等										
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)			0		0	

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	休日の在宅当番等を松山市医師会へ委託										
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など			救急医療体制を維持している。				
施策への貢献度 (目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		休日の眼科の急病患者への医療を確保している。						
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない			
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	特になし				環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策			特になし			
R4年度の目標	松山市医師会等との連携により、救急医療体制の安定的継続を図る。				R4年度の主な取り組み内容(予定含む)			休日の在宅当番等を松山市医師会へ委託			

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804				
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リーダー名	副主幹	清水 太郎	担当者名	副主幹	柏木 康宏		
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804				
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リーダー名	主幹	山内 利博	担当者名	主査	柏木 康宏	主任	高谷 陽介

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	13311	休日診療所運営補助金	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる			重点プロジェクト	-	
施策	医療体制の整備			主な取り組み	-	
主な取り組み	救急医療体制の維持		市長公約	112	子育て環境を充実し、子どもたちの未来を応援する松山をつくります	
取り組みの柱	救急医療機関が小児科医や救急勤務医などの医療従事者を確保するための支援を行い、24時間対応の小児救急医療が提供できる体制など、松山圏域3市3町が連携し、安定した救急医療体制を維持します。				中学生までの医療費の無料化を実現します。また、子育て世代包括支援センターの充実や産後ケアの推進、小児救急医療体制の堅持など、安心して出産や子育てができる環境を整えます。	
総合戦略	1331	基本目標	①つながる未来を応援する(少子化対策)			
		政策	③出会いから子育てまで切れ目のない支援の充実			
		施策	③小児医療の充実			
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	1:有り		重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し		

根拠法令,条例,個別計画等 松山市休日診療所等運営費補助金交付要綱(平成19年8月20日要綱第84号)

事業の目的(どのような状態にするか)	日曜・祝日の急病患者の医療確保					
背景(どのような経緯で開始したか)	昭和43年に松山市医師会が休日診療所開設し、日曜・祝日の一次救急医療体制を確保するため、取り組みを開始した。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	一般財団法人 松山市医師会、一般財団法人 松山薬剤師会 日曜・祝日の急病患者の医療確保を目的として、松山市医師会が開設する休日診療所及び松山薬剤師会が開局する松山会営業局の運営に係る経費に対し補助する。					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない		「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由		
始期・終期(年度)	昭和	43	～	令和	4	終期の種別 2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費		保健衛生費		目	診療所費	R3 予算措置時期	当初
				項		目					
				R2年度		R3年度		R4年度			
現計予算額(A)(単位:千円)						17,909		13,466		13,623	
決算額(B)(単位:千円)						15,866		13,466			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金			0		0		0		0	
	県支出金			0		0		0		0	
	市債			0		0		0		0	
	その他			0		0		0		0	
	一般財源			15,866		13,466		13,466		13,623	
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算						補助金:13,466千円		補助金:13,623千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等											
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		2,043		0			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	日曜・祝日の急病患者の医療確保					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など		救急医療体制を継続している。
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		救急医療体制を確保している。	
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない		公益性	1 1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	松山市医師会等関係機関とのさらなる連携を図ることにより、現在の救急医療体制の長期・安定的継続が必要である。			環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		松山市医師会等との連携により、急患医療センターの運営を含めた救急医療体制の安定的継続を目指す。
R4年度の目標	引き続き、日・祝日の内科・小児科の急病患者への医療を維持する。			R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		現在確保している日・祝日の内科・小児科の急病患者への医療を維持するため、補助金を支出する。



【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)  
 【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)		%	目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
			達成度								
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方						
	本指標の設定理由										
		%	目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			達成度								
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方						
	本指標の設定理由										
	成果指標 (3つまで設定可)	一三次救急の連携により24時間365日救急医療を受けることができる体制	%	目標値	100	100	100	100	100	目標値	100
				実績値	100	100	100	100	100	達成年度	-
達成度				100	100	100	100	100			
指標の種類		5現状維持を目指す指標(増を良しとする)			最終目標値の設定の考え方		現状維持を目標値とする。救急医療体制を継続して維持する必要があるため、達成年度は設定できない。				
本指標の設定理由		救急医療体制確保のため、休日診療所が診療を行う日曜・祝日、1月2日、3日のうち、全ての日で診療が行われること(100%)を目標とする。									
		%	目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			達成度								
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)		活動指標	%	目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
	達成度										
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方						
	本指標の設定理由										
	成果指標	%	目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			達成度								
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方						
	本指標の設定理由										
	上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容										

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リーダー名	副主幹	清水 太郎	担当者名	副主幹	柏木 康宏	
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リーダー名	主幹	山内 利博	担当者名	主査	柏木 康宏	主任 高谷 陽介

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	13311	病院群輪番制病院運営事業補助金	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5.補助金・負担金
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】		笑顔プログラム	312	個別プログラム	笑顔を守るプログラム
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる				重点プロジェクト	みんなで守り助け合う「安心して暮らせるまちづくり」プロジェクト
施策	医療体制の整備				主な取り組み	地域における医療・介護体制の充実
主な取り組み	救急医療体制の維持		市長公約	112	子育て環境を充実し、子どもたちの未来を応援する松山をつくります	
取り組みの柱	救急医療機関が小児科医や救急勤務医などの医療従事者を確保するための支援を行い、24時間対応の小児救急医療が提供できる体制など、松山圏域3市3町が連携し、安定した救急医療体制を維持します。				中学生までの医療費の無料化を実現します。また、子育て世代包括支援センターの充実や産後ケアの推進、小児救急医療体制の堅持など、安心して出産や子育てができる環境を整えます。	
総合戦略	4411	基本目標	④住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり)			
		政策	④近隣地域との連携による経済・生活圏の形成			
		施策	①連携中核都市圏構想の推進			
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	1:有り		重点的取組事業該当有無(R3)	1:有り		

根拠法令,条例,個別計画等 松山市病院群輪番制病院運営費補助金交付要綱(平成19年8月20日要綱第83号)、松山市救急搬送受入に係る補助金交付要綱(平成25年8月9日要綱第59号)

事業の目的(どのような状態にするか)	重症患者等を受け入れる二次救急医療体制を安定的に提供する。						
背景(どのような経緯で開始したか)	昭和39年救急病院等を定める省令が施行され、昭和40年救急告示医療機関が救急活動を開始し、昭和52年病院群輪番制による二次救急医療体制が整備された。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	休日・夜間に入院治療を必要とする重症患者の医療を確保するため、14の病院群輪番制病院にその運営にかかる費用の補助を行う。						
受益者負担の状況	負担の有無	3.負担する性質でない		「有り」の場合,基準や金額等「無し」の場合,その理由			
始期・終期(年度)	昭和	43	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費		保健衛生費		目	診療所費	R3 予算措置時期	当初	9月補正
				項	目	目	目					
				R2年度				R3年度		R4年度		
現計予算額(A)(単位:千円)				62,900				65,910		68,466		
決算額(B)(単位:千円)				62,900				65,303				
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金			0		0		0		0		
	県支出金			0		0		0		0		
	市債			0		0		0		0		
	その他			12,772		13,260		13,586		13,586		
	一般財源			50,128		52,043		54,880		54,880		
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算								補助金:65,303千円		補助金:68,466千円		
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等								9月補正で3,010千円追加(新規輪番病院追加のため) ※その後、1病院が夜間診療不可となり、補助減額したため、執行残が生じた。				
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)				0		607		

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	二次救急医療体制を維持するため、補助金を支給した。					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	救急医療体制を継続している。		
施策への貢献度(目的達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由	救急医療体制を確保している。		
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	救急医療の現場では、年々救急搬送患者が増加するなど、医師等、救急医療に携わるスタッフが疲弊している。また、救急当番日には現場で対応するスタッフの人員確保やベッド数の確保に苦慮している。			環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		松山市医師会や救急指定医療機関との連携を図り、補助金額の見直しや新たに病院群輪番制に参加する病院を探すなど、救急医療体制の維持に努める。
R4年度の目標	各輪番病院や医師会等と情報共有を図り、補助金を継続支給することにより、現在確保している365日24時間の救急医療体制の安定的継続を図る。			R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		補助金を継続支給することにより、現在確保している365日24時間の救急医療体制の安定的継続を図る。

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)  
 【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)		%	目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
			達成度								
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方						
	本指標の設定理由										
		%	目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			達成度								
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方						
	本指標の設定理由										
		%	目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
達成度											
指標の種類				最終目標値の設定の考え方							
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	24時間365日救急医療を受けることができる体制	%	目標値	100	100	100	100	100	目標値	100	
			実績値	100	100	100	100	100	達成年度	-	
			達成度	100	100	100	100	100			
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)			最終目標値の設定の考え方		現状維持を目標値とする。救急医療体制を継続して維持する必要があるため、達成年度は設定できない。				
	本指標の設定理由	救急医療体制を維持するうえでの指標となるため、年間日数に対する二次救急医療体制が確保できた日数の割合100%を目標とする。									
		%	目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			達成度								
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方						
	本指標の設定理由										
		%	目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
達成度											
指標の種類				最終目標値の設定の考え方							
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標										
	成果指標	本市では、輪番病院の運営に必要な経費の一部を補助し、各病院の医療スタッフの確保や救急搬送受け入れ体制が整えられていることで、急な病気やケガの時に、毎日どこかの病院で診療を受けることができる二次救急輪番体制が構築されており、現状維持に努めている。									
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リーダー名	副主幹	清水 太郎	担当者名	副主幹	柏木 康宏	
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リーダー名	主幹	山内 利博	担当者名	主査	柏木 康宏	主任 高谷 陽介

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(実施コード)	13311	松山市救急医療対策協議会負担金				事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】					笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる						重点プロジェクト	-	
施策	医療体制の整備						主な取り組み	-	
主な取り組み	救急医療体制の維持					市長公約			
取り組みの柱	救急医療機関が小児科医や救急勤務医などの医療従事者を確保するための支援を行い、24時間対応の小児救急医療が提供できる体制など、松山圏域3市3町が連携し、安定した救急医療体制を維持します。								
総合戦略	基本目標	-				取組み			
	政策	-							
	施策	-							
総合計画の実施計画掲載有無(R3)		2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し					
根拠法令,条例,個別計画等	松山市救急医療対策協議会規約								
事業の目的(どのような状態にするか)	救急医療に関することを総合的に調査し、傷病者の医療確保を図る。								
背景(どのような経緯で開始したか)	昭和47年、松山市医師会をはじめ関係者が意思疎通を図り、地域内の円滑な救急体制が整備できるよう協議会が発足した。								
対象・事業内容(誰に対して、何をするか)	松山市救急医療対策協議会 救急医療体制を継続するため協議会の運営に係る経費の一部を負担している。								
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない		「有り」の場合,基準や金額等 「無し」の場合,その理由					
始期・終期(年度)	昭和	47	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費	項	保健衛生費	目	診療所費	R3予算措置時期		当初
									R2年度	R3年度	
現計予算額(A)(単位:千円)						400		400			500
決算額(B)(単位:千円)						550		500			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳			国支出金			0		0			0
			県支出金			0		0			0
			市債			0		0			0
			その他			0		0			0
			一般財源			550		500			500
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算							負担金:500千円			負担金:500千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等							流用による100千円増あり(協議会を追加開催し、新型コロナウイルスへの対応を協議したため)				
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)			-150		-100			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	救急医療体制の安定的継続を図るため、負担金を支出した。										
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下			左記の理由として良かった点,悪かった点など			救急医療体制を維持している。			
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		救急医療体制を確保している。						
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない				公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない		
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	救急医療の現場では、年々救急搬送患者が増加するなど、医師等、救急医療に携わるスタッフが疲弊している。また、救急当番日には現場で対応するスタッフの人員確保やベッド数の確保に苦慮している。					環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策			救急医療体制が、将来にわたって安定的に継続できるよう、松山市医師会、救急病院等と協議する。		
R4年度の目標	松山市医師会、救急病院等との連携により、救急医療体制の安定的継続を図る。					R4年度の主な取り組み内容(予定含む)			松山市医師会、救急病院等との連携により、救急医療体制の安定的継続を図るため負担金を支払う。		

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リーダー名	副主幹	清水 太郎	担当者名	副主幹	柏木 康宏	
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リーダー名	主幹	山内 利博	担当者名	主査	柏木 康宏	主任 高谷 陽介

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	13311	小児救急医療支援事業補助金	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】		笑顔プログラム	212	個別プログラム	笑顔を育むプログラム
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる				重点プロジェクト	出会いから子どもの成長まで「つながる未来を応援するまちづくり」プロジェクト
施策	医療体制の整備		市長公約	112	主な取り組み	安心して出産・子育てができる環境の整備
主な取り組み	救急医療体制の維持				子育て環境を充実し、子どもたちの未来を応援する松山をつくります	
取り組みの柱	救急医療機関が小児科医や救急勤務医などの医療従事者を確保するための支援を行い、24時間対応の小児救急医療が提供できる体制など、松山圏域3市3町が連携し、安定した救急医療体制を維持します。		取組み		①小児科医師不足を補うための支援など、救急医療に従事する小児科医師確保のための支援に取り組みます。また、夜間や休日の小児救急医療体制を堅持します。	
総合戦略	1331	基本目標	①つながる未来を応援する(少子化対策)			
		政策	③出会いから子育てまで切れ目のない支援の充実			
		施策	③小児医療の充実			
総合計画の実施計画掲載有無(R3)		1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)	1:有り		

根拠法令,条例,個別計画等 松山市小児救急医療支援事業等補助金交付要綱(平成19年8月20日要綱第82号)

事業の目的(どのような状態にするか)	小児の重症患者を受け入れる小児二次救急医療体制を安定的に提供する。					
背景(どのような経緯で開始したか)	病院群輪番制病院14病院が8日サイクルで実施する救急当番日のうち、5日間は小児の重症患者の受け入れが困難なことから、年間365日の小児二次救急医療体制を確保するため、取り組みを開始した。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	松山赤十字病院、松山市民病院 小児重症患者を受け入れる小児二次救急医療を安定的に提供するため、小児救急医療支援事業を実施する病院の小児科医師の確保などに要する経費を補助する。					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合,基準や金額等 「無し」の場合,その理由			
始期・終期(年度)	平成 14	～	令和 4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	R2年度		R3年度		R4年度	
				衛生費	項	保健衛生費	目	診療所費	R3 予算措置時期
現計予算額(A)(単位:千円)					171,500		171,500		171,500
決算額(B)(単位:千円)					171,500		171,500		
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳				国支出金	0		0		0
				県支出金	4,700		4,784		4,564
				市債	0		0		0
				その他	33,393		33,377		33,030
			一般財源	133,407		133,339		133,906	
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算						補助金:171,500千円		補助金:171,500千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等									
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)	0		0		

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	小児の二次救急医療体制を維持するため、補助金を支出した。					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	小児救急医療体制を確保している。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	救急医療体制を確保している。			
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	小児科医師の確保		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		各病院での小児科医師は、補助金の活用により、なんとか確保できている状況であることから、将来にわたって一二次救急医療体制の連携を図り、安定的に小児救急医療体制を継続するため、本事業を継続して行う。	
R4年度の目標	小児救急医療支援事業等補助金を継続支給することにより、現在確保している365日24時間の小児救急医療体制の安定的継続を図る。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		小児救急医療支援事業等補助金を継続支給することにより、現在確保している365日24時間の小児救急医療体制の安定的継続を図る。	



【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)  
 【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)		%	目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
			達成度								
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方						
	本指標の設定理由										
		%	目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			達成度								
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方						
	本指標の設定理由										
	成果指標 (3つまで設定可)	一二次救急の連携により24時間365日小児救急医療を受けることができる体制	%	目標値	100	100	100	100	100	目標値	100
				実績値	100	100	100	100	100	達成年度	-
達成度				100	100	100	100	100			
指標の種類		5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)			最終目標値の設定の考え方		現状維持を目標値とする。救急医療体制を継続して維持する必要があるため、達成年度は設定できない。				
本指標の設定理由		小児救急医療体制を維持するうえでの指標となるため、年間日数に対する小児救急医療体制が確保できた日数の割合100%を目標とする。									
		%	目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			達成度								
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)		活動指標	%	目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
	達成度										
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方						
	本指標の設定理由										
	成果指標	%	目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			達成度								
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方						
	本指標の設定理由										
	上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容		急な病気やケガをしたときに、24時間365日の小児救急医療体制が整えられており、現状維持に努めている。								

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リーダー名	副主幹	清水 太郎	担当者名	主任	高谷 陽介	
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リーダー名	主幹	山内 利博	担当者名	主任	高谷 陽介	主査 柏木 康宏

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	13311	小児救急医療確保事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営	
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】		笑顔プログラム	213	個別プログラム	笑顔を育むプログラム	
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる					重点プロジェクト	出会いから子どもの成長まで「つながる未来を応援するまちづくり」プロジェクト
施策	医療体制の整備					主な取り組み	小児救急医療体制の維持
主な取り組み	救急医療体制の維持		市長公約	111	子育て環境を充実し、子どもたちの未来を応援する松山をつります	子育て環境の充実、子どもたちの未来を応援する松山をつります	
取り組みの柱	救急医療機関が小児科医や救急勤務医などの医療従事者を確保するための支援を行い、24時間対応の小児救急医療が提供できる体制など、松山圏域3市3町が連携し、安定した救急医療体制を維持します。					中学生までの医療費の無料化を実現します。また、子育て世代包括支援センターの充実や産後ケアの推進、小児救急医療体制の堅持など、安心して出産や子育てができる環境を整えます。	
総合戦略	1331	基本目標	①つながる未来を応援する(少子化対策)	取組み	① 小児科医師不足を補うための支援など、救急医療に従事する小児科医師確保のための支援に取り組みます。また、夜間や休日の小児救急医療体制を堅持します。		
		政策	③出会いから子育てまで切れ目のない支援の充実				
		施策	③小児医療の充実				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)			1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)		1:有り	
根拠法令,条例,個別計画等	松山市小児救急医療支援事業等補助金交付要綱(平成19年8月20日要綱第82号)						

事業の目的(どのような状態にするか)	小児救急医療体制を長期安定的に維持する。						
背景(どのような経緯で開始したか)	診療科目の偏在や高齢化等による小児救急に携わる医師の不足のため、取り組みを開始した。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	①愛媛大学医学部に寄附講座を設置し、急患医療センターの出務協力を得る外、小児科医の育成や小児医療に関する普及啓発を実施する。 ②市内に小児科を新規開業する場合に費用の一部を補助する。 ③松山赤十字病院及び愛媛大学医学部の臨床研修指導医が急患医療センターに出務する際、小児科研修医(2年次)の現地研修を実施する。 ④救急医療を正しく利用していただくため、ガイドブックを作成するとともに、幼稚園や保育所、公民館等での出前講座を実施し、小さなお子さんと関わりがある保護者らを対象に、広く普及啓発を図る。						
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由				
始期・終期(年度)	平成	14	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費	項	保健衛生費	目	診療所費	R3 予算措置時期	当初
				R2年度			R3年度			R4年度
現計予算額(A)(単位:千円)						35,655		45,631		35,631
決算額(B)(単位:千円)						34,438		43,369		
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳			国支出金			0		0		0
			県支出金			0		0		0
			市債			0		0		0
			その他			0		0		0
			一般財源			34,438		43,369		35,631
主な経費(単位:千円) ※R3→決算R4→予算							寄附金:23,000千円 補助金:20,000千円 報償費:1,647千円		寄附金:23,000千円 補助金:10,000千円 報償費:1,497千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越、補正、流用、事業統合等										
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)			1,217		2,262		

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	松山市急患医療センターにて小児科研修医の現地研修を実施するとともに、小児救急医療の正しい利用方法などを啓発する出前講座を幼稚園、保育所や公民館などで開催する。					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点、悪かった点など	小児救急医療体制を継続している。		
施策への貢献度(目的達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	小児救急医療体制を継続している。			
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	将来を見据えた、小児科医の確保が課題		環境変化、障害、課題等解決のため、R4年度で取り組む改善策	松山市急患医療センターに出務可能な医師が、高齢化などにより年々減少していることから、小児科医の確保や救急医療の正しい利用方法についての啓発に取り組む。また、医師の働き方改革への影響も注視しながら、引き続き、小児救急医療体制への協力が得られるよう、松山市医師会や愛媛大学医学部等と連携する。		
R4年度の目標	圏域市町や松山市医師会、松山赤十字病院、愛媛大学医学部等の関係機関との連携を深め、松山市急患医療センターの運営を含めた小児救急医療体制の安定的継続を目指す。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)	小児救急医療体制を長期安定的に維持するため、愛媛大学医学部の寄附講座、小児科研修医の育成に伴う現地研修や小児救急医療の正しい利用方法について、啓発に取り組む。また、市内で新たに小児科を新規開業する場合、費用の一部を補助する。		

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)  
 【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)		%	目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
			達成度								
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方						
	本指標の設定理由										
		%	目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			達成度								
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方						
	本指標の設定理由										
	成果指標 (3つまで設定可)	一二次救急の連携により24時間365日小児救急医療を受けることができる体制	%	目標値	100	100	100	100	100	目標値	100
				実績値	100	100	100	100	100	達成年度	-
達成度				100	100	100	100	100			
指標の種類		5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)			最終目標値の設定の考え方		現状維持を目標値とする。救急医療体制を継続して維持する必要があるため、達成年度は設定できない。				
本指標の設定理由		救急医療の正しい利用方法の周知は、小児救急医療体制を維持する上での目標となるため、年間日数に対する小児救急医療体制が確保できた日数の割合を100%を目標とする。									
小児科新規開業件数		件	目標値	-	1	2	1	1	目標値	4	
			実績値	-	1	2			達成年度	R5	
			達成度	-	100	100					
指標の種類		3.累計での増加を目指す指標			最終目標値の設定の考え方		平成30年度の当補助金創設時、5力年で新規開業目標を3件としていたが、令和2年度に1件、令和3年度に2件の新規開業による補助金交付ができたため、当初の目標値は達成している。				
本指標の設定理由		松山市急患医療センターへの出務可能な医師が高齢化等により、年々減少していることから、小児科の新規開業を促進することにより小児科医を確保する。									
		%	目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
	達成度										
指標の種類				最終目標値の設定の考え方							
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標										
	成果指標	研修医が急患センターで実地研修したことにより、将来を担う小児科医の育成につなげた。また、市ホームページ等で小児科の新規開業を促進し、補助金を活用して小児科を開業し、小児救急医療体制の現状維持に努めている。									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804				
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リーダー名	副主幹	清水 太郎	担当者名	主事	坂本 侖奈	主任	吉田 幸子
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804				
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リーダー名	主幹	山内 利博	担当者名	主任	高谷 陽介	主事	松江 知波

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	13312	救急医療啓発事業				事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】				笑顔プログラム	個別プログラム	-		
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる					重点プロジェクト	-		
施策	医療体制の整備					主な取り組み	-		
主な取り組み	救急医療体制の維持				市長公約				
取り組みの柱	松山圏域3市3町が連携し、緊急性のない軽症患者の安易な利用を防ぐための住民への周知啓発に取り組み、救急医療機関の適正利用を推進します。								
総合戦略	基本目標	-			取組み				
	政策	-							
	施策	-							
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)		2:無し					
根拠法令,条例,個別計画等									
事業の目的(どのような状態にするか)	救急医療に関する情報提供や啓発を行い、救急医療体制を維持する。								
背景(どのような経緯で開始したか)	救急受診の必要ない患者が増加したため、取り組みを開始した。								
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	市民に対し、啓発リーフレットの作成や広報紙、ホームページ等により、救急医療の正しい利用方法等についての情報提供や啓発を行う。								
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない		「有り」の場合,基準や金額等「無し」の場合,その理由					
始期・終期(年度)	平成	12	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費	項	保健衛生費	目	診療所費	R3予算措置時期		当初
									R2年度	R3年度	
現計予算額(A)(単位:千円)						145		145			145
決算額(B)(単位:千円)						85		18			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳			国支出金			0		0			0
			県支出金			0		0			0
			市債			0		0			0
			その他			0		0			0
			一般財源			85		18			145
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算							需用費 8千円 役務費 10千円			需用費 135千円 役務費 10千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等											
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)			60		127			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	啓発リーフレットの作成や広報紙、ホームページによる啓発を実施した。										
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など		救急医療体制を維持している。					
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		地域の救急医療体制の確保に役立っている。						
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない			
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	緊急性のない場合での救急医療機関への受診が課題となっている。					環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		継続した救急医療の正しい利用方法についての啓発に取り組む。			
R4年度の目標	広報紙、ホームページへの掲載やリーフレットの作成による啓発を実施し、救急医療の正しい利用について周知する。					R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		啓発リーフレットの作成や広報紙、ホームページによる啓発を実施する。			

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804				
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リーダー名	副主幹	清水 太郎	担当者名	主任	高谷 陽介	主任	中矢 皓介
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804				
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リーダー名	主幹	山内 利博	担当者名	主任	中矢 皓介		

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	13321	離島診療連絡船維持管理事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	2:委託	
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】		笑顔プログラム	個別プログラム	-		
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる			重点プロジェクト	-		
施策	医療体制の整備			主な取り組み	-		
主な取り組み	地域医療体制の充実		市長公約	321	みんなで助け合い、安心して暮らせる松山をつくります		
取り組みの柱	島しょ部における医療体制の充実や、通院にかかる交通費負担の軽減など、地域に即した医療体制の充実を図ります。				地域包括支援センターの充実や、必要な医療や介護が不安なく受けられる環境の整備など、住み慣れた地域でお互いに見守り、支え合える仕組みをつくります。		
総合戦略	基本目標	-	取組み	-			
	政策	-					
	施策	-					
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し				
根拠法令,条例,個別計画等							
事業の目的(どのような状態にするか)	旧中島地域で中島以外の5島の地域医療確保のため、「なかじま中央病院」の医療従事者を毎週月曜日から金曜日の間、5島の診療所へ送迎する。						
背景(どのような経緯で開始したか)	中島病院及び中島区域5島診療所の民営化に伴い、医療サービス水準の維持、向上を目的に、一次救急医療、離島診療体制の維持などについて、医療法人「友朋会」と覚書を締結した。その際、離島診療所での診療については、島間の移動手段を行政が支援することとし、行政が維持管理する診療連絡船で医療従事者を送迎している。						
対象・事業内容(誰に対して、何をするのか)	診療を行う「なかじま中央病院」の医療スタッフ(医師、看護師、薬剤師、事務員)の島間移動 委託先:あいらいん株式会社(3年間の複数年契約令和3年度～令和5年度まで) 行政で離島診療連絡船の維持管理を行い、運航及び整備は民間業者に委託し、5島診療所へ各島週2回、医師、看護師等を送迎する。						
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由				
始期・終期(年度)	平成	19	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費	項	保健衛生費	目	診療所費	R3 予算措置時期		当初
									R2年度	R3年度	
現計予算額(A)(単位:千円)						12,113		12,695			9,955
決算額(B)(単位:千円)						10,325		8,236			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳			国支出金			0		0			0
			県支出金			0		0			0
			市債			0		0			0
			その他			0		0			0
			一般財源			10,325		8,236			9,955
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算							委託料:3,995千円 使用料及び賃借料:950千円 燃料費:1,720千円	委託料:4,291千円 使用料及び賃借料:1,584千円 燃料費:1,663千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等											
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)			1,788		4,459			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	離島診療連絡船の運航を委託し、医療スタッフの輸送を実施 離島診療連絡船の維持管理を行う。										
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など			やむを得ない事情を除き、休診になることなく運航することができた。				
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		地域の救急医療体制の確保に役立っている。						
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	3	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない			
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	しまどりIIを停泊している桟橋の劣化が見られるため、状況を確認し、必要があれば修繕工事等を行い事故の無いように努める。					環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策			しまどりIIに対する不便な点等を現場に出る委託業者や医療スタッフから聴取し、安全に運航ができる態勢の整備に務める。		
R4年度の目標	新船「しまどりII」を定期的に整備し、大きな船体トラブルに繋がらないよう維持するとともに、今までと変わらず事業の安定的な継続を図る。					R4年度の主な取り組み内容(予定含む)			離島診療連絡船の運航を委託し、医療スタッフの輸送を行う。 離島診療連絡船の維持管理を行う。		



【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	離島診療連絡船の維持	艇	目標値	1	1	1	1	1	目標値	1	
			実績値	1	1	1	1	1	達成年度	令和4年度	
		%	達成度	100	100	100					
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)				最終目標値の設定の考え方		現状維持を目標とする。			
	本指標の設定理由	診療所への交通手段として使用するため									
	活動指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
			%	達成度							
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
	活動指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
%			達成度								
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	運航割合	%	目標値	100	100	100	100	100	目標値	100	
			実績値	100	100	100	100	100	達成年度	令和4年度	
		%	達成度	100	100	100	100	100			
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)				最終目標値の設定の考え方		現状維持を目標とする。			
	本指標の設定理由	確実に運航を行うため。									
	成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
			%	達成度							
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
	上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	運航に支障がでないよう、日頃から運航後に点検等を行い、維持管理を行うことができた。								
			成果指標	診療所運営のため、友朋会が求める際に確実に運航することが必要になることから、年に2回の定期ドック等の際には、別途代船を賃借し対応できた。							
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リーダー名	清水 太郎	担当者名	主任	高谷 陽介	主任	中矢 皓介
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リーダー名	主幹	担当者名	主任	中矢 皓介		

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	13321	患者搬送車維持管理事業				事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	2:委託	
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】				笑顔プログラム	個別プログラム	-			
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる					重点プロジェクト	-			
施策	医療体制の整備					主な取り組み	-			
主な取り組み	地域医療体制の充実				市長公約	321	みんなで助け合い、安心して暮らせる松山をつくります			
取り組みの柱	島しょ部における医療体制の充実や、通院にかかる交通費負担の軽減など、地域に即した医療体制の充実を図ります。						地域包括支援センターの充実や、必要な医療や介護が不安なく受けられる環境の整備など、住み慣れた地域でお互いに見守り、支え合える仕組みをつくります。			
総合戦略	基本目標	-			取組み	-				
	政策	-								
	施策	-								
総合計画の実施計画掲載有無(R3)		2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)		2:無し					
根拠法令,条例,個別計画等										

事業の目的(どのような状態にするか)	救急車がない中島本島で、消防局からの出動要請により、急病患者を島内の病院や港へ搬送し、24時間365日の患者搬送体制を確保することを目的とする。									
背景(どのような経緯で開始したか)	高齢化・過疎化が進む中島本島で、常備消防がない中で、急病患者の搬送体制を確保する必要があったため取組を開始した。									
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	中島本島内の急病患者 委託先:中島汽船株式会社 行政で車両の維持管理を行い、民間業者に車両の運行を委託し、消防局からの出動要請に応じて急病患者の搬送を実施している。									
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない			「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由					
始期・終期(年度)	平成	16	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期			

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費	項	保健衛生費	目	診療所費	R3 予算措置時期		当初
									R2年度	R3年度	
現計予算額(A)(単位:千円)						5,377		5,514			7,956
決算額(B)(単位:千円)						5,517		7,832			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳			国支出金			0		0			0
			県支出金			0		0			0
			市債			0		0			0
			その他			0		0			0
			一般財源			5,517		7,832			7,956
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算							委託料:7,802千円			委託料:7,802千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等							流用による増あり				
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)			-140		-2,318			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	患者搬送者の運行を委託し、消防局からの要請に基づき、救急搬送を実施する。車両の維持管理を行う。										
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下			左記の理由として良かった点,悪かった点など			消防局からの出動要請のとおり搬送を実施した。			
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		地域の医療体制の確保に役立っている。						
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない				公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない		
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	老人介護や独居世帯の増加により、収容時の労力が増加している。搬送経路が患者宅→病院、港、ヘリポートの場合は消防局が周りの状況を確認し、協力者の存在が確認できたら運転手のみでの搬送を行っていた。令和3年度からは周りの状況に関わらず、上記搬送で消防隊員が同乗しない場合は、運転手と補助者の2名での搬送を依頼している。				環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策				収容時の人員確保のため令和3年度から運行補助者を雇入れ搬送時に1人で搬送することが無いよう体制の確保を行ったため、今後も安定して事業を継続できるよう努める。		
R4年度の目標	中島島民の協力を得ることなく、委託の範囲内で安定的な搬送を行う。				R4年度の主な取り組み内容(予定含む)				消防局からの要請に応じ、24時間365日確実に搬送を行う。車両の維持管理を行う。		

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)  
 【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	患者搬送車の維持	台	目標値	1	1	1	1	1	目標値	1	
			実績値	1	1	1	1	1	達成年度	令和4年度	
		%	達成度	1	1	1	1	1			
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)				最終目標値の設定の考え方	確実に出勤できるよう車両の維持管理を行う。				
	本指標の設定理由	島内の急病患者の搬送を行うため									
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
%		達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	患者搬送割合	%	目標値	100	100	100	100	100	目標値	100	
			実績値	100	100	100	100	100	達成年度	R4年度	
		%	達成度	100	100	100	100	100			
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)				最終目標値の設定の考え方	出勤要請に100%応じ、搬送することを目的とする。				
	本指標の設定理由	消防局からの要請があり次第、確実に搬送する									
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
%		達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	患者搬送車がいつでも出勤できるよう、日頃から車両や搭載するストレッチャーの必要点検を行い、出勤に備えた維持管理を行えた。									
	成果指標	消防局からの出勤要請に対し、出動員を常時2名待機させ、救急搬送を100%対応することができた。									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804				
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リーダー名	副主幹	清水 太郎	担当者名	主任	吉田 幸子	主任	中矢 皓介
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804				
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リーダー名	主幹	山内 利博	担当者名	主任	中矢 皓介		

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	13321	中島等地域医療確保事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる			重点プロジェクト	-	
施策	医療体制の整備			主な取り組み	-	
主な取り組み	地域医療体制の充実		市長公約	321	みんなで助け合い、安心して暮らせる松山をつくります	
取り組みの柱	島しょ部における医療体制の充実や、通院にかかる交通費負担の軽減など、地域に即した医療体制の充実を図ります。				地域包括支援センターの充実や、必要な医療や介護が不安なく受けられる環境の整備など、住み慣れた地域でお互いに見守り、支え合える仕組みをつくります。	
総合戦略	基本目標	-		取組み	-	
	政策	-			-	
	施策	-			-	
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			

根拠法令,条例,個別計画等	松山市補助金等交付規則、松山市中島区域病院等運営費補助金交付要綱						
事業の目的(どのような状態にするか)	中島の地域医療確保と民営化後の病院経営の安定化を図る。						
背景(どのような経緯で開始したか)	中島病院をはじめ中島5島診療所が民営化されたことに伴い、H19～R3年度の間、365日24時間の一次救急医療の確保及び週2回半日の5島の診療所運営に要する経費の一部を病院等引受先法人に補助してきた。しかし、著しい過疎化・少子高齢化の進展や、医療従事者の人件費の高騰などにより、病院経営が逼迫していることから、中島の地域医療確保と民営化後の病院経営の安定化を図るために、R4～R8年度の間も補助を継続していくとともに、興居島を含む6島診療所の施設の維持管理を行う。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	病院等引受先法人 医療法人「友朋会」 診療所施設の維持管理と「友朋会」からの補助金交付申請を受けて、年度2回に分けて補助金を交付する。						
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由				
始期・終期(年度)	平成	19	～	令和	6	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費		保健衛生費		目	診療所費	R3 予算措置時期	当初
				項	目	目	目				
				R2年度		R3年度		R4年度			
現計予算額(A)(単位:千円)				74,280		74,280		75,180			
決算額(B)(単位:千円)				75,859		74,866					
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳	国支出金			0		0		0			
	県支出金			0		0		0			
	市債			67,600		67,600		64,300			
	その他			0		0		0			
	一般財源			8,259		7,266		10,880			
主な経費(単位:千円) ※R3→決算R4→予算						負担金補助及び交付金:74,000千円		負担金補助及び交付金:74,000千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等						流用による増あり					
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		-1,579		-586			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	医療法人「友朋会」に補助金を交付する。 離島診療所(睦月、野忍那、怒和、津和地、二神、興居島)の維持管理を行う。					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	予定どおり補助金を交付した。 診療が継続できるよう、離島診療所の維持管理を行えた。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	地域医療の確保に寄与することができた			
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	著しい過疎化、少子高齢化や診療報酬改定による収入の減少などの影響で、收支の悪化が見られる。		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組み改善策		医療法人「友朋会」との連絡を密にとり、これからの病院経営の推移等を把握し、補助金継続の必要性について検討するとともに、今後の診療方法等についても協議を行う。また、各診療所の老朽化に伴い、優先順位を付けつつ診療を継続できるよう診療所の修繕を行っている。	
R4年度の目標	中島等地域の安定的・継続的な医療の確保に努める。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		引き続き医療法人「友朋会」に補助金を交付する。問題なく診療ができるよう、離島診療所の維持管理を行う。	

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)  
 【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	病院数の維持	施設	目標値	1	1	1	1	1	目標値	1	
			実績値	1	1	1	1	1	達成年度	R6年度	
		%	達成度	1	1	1	1	1			
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)				最終目標値の設定の考え方		現状維持を目標とする。			
	本指標の設定理由	中島島内の地域医療の確保のため。									
	診療日数	日	目標値	366	365	365	365	366	366	目標値	365
			実績値	366	365	365				達成年度	R6年度
		%	達成度	366	365	365					
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)				最終目標値の設定の考え方		365日24時間の医療体制を確保する。			
	本指標の設定理由	365日24時間の医療体制を確保するため。									
		目標値							目標値		
		実績値							達成年度		
	%	達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	一次救急医療の診療日数	日	目標値	366	365	365	365	366	366	目標値	365
			実績値	366	365	365				達成年度	R6年度
		%	達成度	366	365	365					
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)				最終目標値の設定の考え方		現状維持を目標とする。			
	本指標の設定理由	医療法人「友朋会」と締結した覚書の中で示した事項のため									
	離島診療回数	回	目標値	480	480	480	470	470	470	目標値	470
			実績値	431	441	470				達成年度	R6年度
		%	達成度	90	92	98					
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)				最終目標値の設定の考え方		現状維持を目標とする。			
	本指標の設定理由	医療法人「友朋会」と締結した覚書の中で示した事項のため									
		目標値							目標値		
		実績値							達成年度		
	%	達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	補助金を交付し、中島等の地域で利用できる医療施設を維持することができた。									
	成果指標	一次救急医療については、必要な体制を構築し、目標を達成することができた。 離島診療は、悪天候による離島間の交通手段の確保ができなかったなど、やむを得ない場合を除き実施することができた。									
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											



令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804				
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リーダー名	副主幹	清水 太郎	担当者名	主事	大西 景子	主任	高谷 陽介
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804				
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リーダー名	主幹	山内 利博	担当者名	主事	大西 景子	主任	中矢 皓介

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	13321	産科医等確保支援補助金	事業性質	1-2:自治事務(できる規定あり)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる			重点プロジェクト	-	
施策	医療体制の整備			主な取り組み	-	
主な取り組み	地域医療体制の充実		市長公約	-		
取り組みの柱	島しょ部における医療体制の充実や、通院にかかる交通費負担の軽減など、地域に即した医療体制の充実を図ります。			-		
総合戦略	基本目標	-		取組み	-	
	政策	-			-	
	施策	-			-	
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			

根拠法令,条例,個別計画等	産科医等確保支援事業実施要綱・愛媛県産科医等確保支援事業補助金交付要綱・松山市補助金等交付規則					
事業の目的(どのような状態にするか)	医師確保対策の一環として、地域でお産を支えている産科・産婦人科医師及び助産師への財政支援をする。					
背景(どのような経緯で開始したか)	減少傾向にある産科医等の処遇を改善し、その確保を図るため、平成21年度から実施された厚生労働省新規事業を県からの要望もあり導入した。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	分娩取扱医療機関 松山市で分娩を取り扱う産科医及び助産師を雇用する「分娩手当」を支給する分娩取扱医療機関に対して補助金を交付する。					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由			
始期・終期(年度)	平成 21	～	令和 4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費	項	保健所費	目	保健所総務費	R3予算措置時期		当初
									R2年度	R3年度	
現計予算額(A)(単位:千円)						9,199		8,859			7,703
決算額(B)(単位:千円)						7,073		7,354			7,703
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳			国支出金			0		0			0
			県支出金			7,073		7,354			7,703
			市債			0		0			0
			その他			0		0			0
			一般財源			0		0			0
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算							補助金:7,354千円		補助金:7,703千円		
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等											
予算執行残額(単位:千円)						(A)-(B)	2,126	1,505			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	松山市で分娩を取り扱う産科医及び助産師が対象である。ただし補助金を交付するのは「分娩手当」を支給する分娩取扱医療機関に対して行う。令和3年度は、矢野産婦人科、米本マタニティクリニック、産婦人科ばらのいずみクリニック、つばきウイメンズクリニック、梅岡レディースクリニック、まつやま助産院、松山まどんな病院の7医療機関に支給した。					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	当初の予定どおり支給することができた。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	分娩件数に基づき補助金を支払い財政支援を行うことで、減少している産科・産婦人科、助産師の医師確保に繋がっている。			
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	事業の内容自体に変化はないが、予算については国の補助企業の廃止に伴い、平成26年度から基金で賄われている。分娩施設は松山市に他にもあるが、申請主義や就業規則等に「分娩手当」を盛り込んだ分娩施設に限定しているため、医師確保対策の一環として、地域でお産を支えている産科・産婦人科医師及び助産師への財政支援をするという目的が一部の医療機関に偏っている。			環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		現在は県の基金で当補助事業が賄われているため、将来的に廃止になった際にどう対応するか検討する。
R4年度の目標	医師確保対策の一環として、地域でお産を支えている産科・産婦人科医師及び助産師への財政支援をする。			R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		松山市で分娩を取り扱う産科医及び助産師を雇用する「分娩手当」を支給する分娩取扱医療機関に対して補助金を交付する。

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804				
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リーダー名	副主幹	清水 太郎	担当者名	主任	吉田 幸子	主任	中矢 皓介
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804				
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リーダー名	主幹	山内 利博	担当者名	主事	松江 知波	主任	中矢 皓介

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	13321	島しょ部航路運賃助成事業				事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】				笑顔プログラム	個別プログラム	-		
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる					重点プロジェクト	-		
施策	医療体制の整備					主な取り組み	-		
主な取り組み	地域医療体制の充実				市長公約	321	みんなで助け合い、安心して暮らせる松山をつくります		
取り組みの柱	島しょ部における医療体制の充実や、通院にかかる交通費負担の軽減など、地域に即した医療体制の充実を図ります。						地域包括支援センターの充実や、必要な医療や介護が不安なく受けられる環境の整備など、住み慣れた地域でお互いに見守り、支え合える仕組みをつくります。		
総合戦略	1322	基本目標	①つながる未来を応援する(少子化対策)		取組み	②島しょ部に居住する妊婦の経済的負担軽減のため、妊婦健診等の受診に際して必要となる航路運賃の助成に取り組みます。			
		政策	③出会いから子育てまで切れ目のない支援の充実						
		施策	②妊娠・出産支援の充実						
総合計画の実施計画掲載有無(R3)		1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し					
根拠法令,条例,個別計画等	松山市島しょ航路運賃助成金交付要綱								
事業の目的(どのような状態にするか)	島しょ部に居住する住民が医療機関の受診を目的に島しょ部航路を利用した場合に、その運賃の一部を助成することで、住民の負担軽減を図るとともに、島しょ部への安住促進を図ることを目的とする。								
背景(どのような経緯で開始したか)	公約 北条・島しょ部の活性化に基づき、島しょ部の住民の負担軽減を図り、定住促進につなげる。								
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	島しょ部に居住する住民が対象 島しょ部に居住する方が通院を目的に航路を利用した場合の運賃の一部を助成する。手続きは保健所医事業事課(郵送可)、中島支所、北条支所、興居島支所、泊出張所で行う。 ①通院支援・・・(1)月に2回以上医療機関で診療を受けるために島しょ部航路を利用する場合、2回目以降の復路フェリー旅客運賃相当額を助成(事後申請) (2)医療機関で診療を受けるために島しょ部航路を利用する中学生以下の方及び同行する同一世帯の保護者1名に、復路フェリー旅客運賃相当額を助成(事後申請) ②妊婦健診等支援・・・母子健康手帳の交付を受けた方が、妊婦健診の受診等のために島しょ部航路を利用する場合に、往復フェリー旅客運賃相当額を助成(事前申請で利用券発行) ③透析患者通院支援・・・週に2回以上の通院による透析治療のために島しょ部航路を利用する場合に、復路フェリー旅客運賃相当額の半額を助成(事前申請で利用券発行)								
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない		「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由					
始期・終期(年度)	平成 24	～	令和 4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検計時期				

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費		保健衛生費		目	診療所費	R3 予算措置時期	当初
				項		目					
				R2年度		R3年度		R4年度			
現計予算額(A)(単位:千円)				7,783		7,468		7,448			
決算額(B)(単位:千円)				5,667		5,713		7,448			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金			0		0		0			
	県支出金			0		0		0			
	市債			0		0		0			
	その他			0		0		0			
	一般財源			5,667		5,713		7,448			
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算						補助金5,403千円		補助金7,092千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等											
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		2,116		1,755			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	補助金の申請受付交付及び交付 本事業の周知・啓発										
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下			左記の理由として良かった点,悪かった点など			R2年度に比べて実績が増加した。今年度も継続して周知・啓発に努める。			
施策への貢献度(目的達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		島しょ部に居住する住民の通院にかかる通院費の負担の軽減となるため。						
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない			
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	対象を通院・妊婦・透析患者に限定しているため、定住促進を目的とした離島活性化交付金を活用できない。また、通院支援申請書の書類確認や支払い事務負担を軽減するため処理方法の見直しが必要である。*				環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策			適切な周知・啓発を行うと同時に、通院支援申請書の書類確認や支払事務負担を軽減するための処理方法の見直しを検討する。			
R4年度の目標	島しょ部に居住する住民に対し、本事業を利用していただけるよう周知・啓発を行うことを目標とする。				R4年度の主な取り組み内容(予定含む)			助成金の申請受付、交付、本事業の周知・啓発			

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)  
 【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	広報周知回数	回	目標値	1	1	1	1	1	目標値	1	
			実績値	1	1	1	1	1	達成年度	R6年度	
		%	達成度	100	100	100					
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)					最終目標値の 設定の考え方	新たに本事業の対象となる方などに対し、広報などで周知・啓発することを目標とする。			
	本指標の設定理由	事業の周知・啓発を図った指標として相応しいため。									
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類						最終目標値の 設定の考え方				
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
%		達成度									
指標の種類						最終目標値の 設定の考え方					
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	通院支援助成	件	目標値	1,597	1,635	1,327	1,338	1,338	目標値	1,338	
			実績値	1,635	1,327	1,338			達成年度	R6年度	
		%	達成度	102	81	99					
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)					最終目標値の 設定の考え方	現状維持を目指す指標のため、前年度の実績値を目標値に設定。			
	本指標の設定理由	対象者に通院にかかった航路運賃の一部を助成するため									
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類						最終目標値の 設定の考え方				
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
%		達成度									
指標の種類						最終目標値の 設定の考え方					
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	本事業の認知度が向上し、対象となる方に補助金を交付することができた。									
	成果指標	島しょ部に住まわれている方に本事業が周知され、制度が定着してきている。									
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	医業指導担当	連絡先	911-1865				
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リダー名	主幹	宮崎 貞守	担当者名	主査	岡田 太郎	薬剤師	松原 佑季
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	医業指導担当	連絡先	911-1865				
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リダー名	副主幹	宮崎 貞守	担当者名	副主幹	山岡 美佐	主査	小林 義嗣

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	13323	病院等監視指導事業	事業性質	1-4:自治事務(義務規定あり)	事業区分	1:直営
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる			重点プロジェクト	-	
施策	医療体制の整備			主な取り組み	-	
主な取り組み	地域医療体制の充実		市長公約	-		
取り組みの柱	市民にとって必要な医療機関の情報を適切に提供するとともに、医療従事者の資質を向上させることで、安心して安全な医療体制の充実を図ります。			-		
総合戦略	基本目標	-		取組み	-	
	政策	-			-	
	施策	-			-	
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			

根拠法令,条例,個別計画等	医療法第25条第1項						
事業の目的(どのような状態にするか)	病院、診療所、助産所、施術所及び歯科技工所等の業務が各関係法令に基づき、適正に行われるようにすること。						
背景(どのような経緯で開始したか)	保健所設置市になった平成10年度から、関係法令に基づく届出等の受理、許可等の事務及び立入検査等を実施している。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	対象:病院、診療所、助産所、医療法人、施術所、歯科技工所、栄養士養成施設、衛生検査所等 事業内容: ・施設の開設や変更等に関する申請、届出等の審査 ・医療法人に関する認可や届出等の審査、事業報告書の閲覧及び指導監視 ・施設の新規開設や変更に伴う現地調査及び医療法に基づく立入検査 ・苦情、相談等に伴う立入検査						
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由	松山市手数料条例による手数料			
始期・終期(年度)	平成	10	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検計時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費		保健所費		R3予算措置時期	当初
				目	項	目	項		
				R2年度		R3年度		R4年度	
現計予算額(A)(単位:千円)				364		402		379	
決算額(B)(単位:千円)				257		245			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳	国支出金			0		0		0	
	県支出金			0		0		0	
	市債			0		0		0	
	その他			896		732		969	
	一般財源			-639		-487		-590	
主な経費(単位:千円) ※R3→決算、R4→予算				・消耗品費 192千円 ・通信運搬費 51千円 ・旅費 2千円		・消耗品費 196千円 ・通信運搬費 98千円 ・旅費 86千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越、補正、流用、事業統合等				医療関係施設監視指導事業と統合					
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		107		157	

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	・病院、診療所、助産所、施術所等の開設や変更等に関する申請、届出等の審査 ・医療法人に関する認可や届出等の審査、事業報告書の閲覧及び指導監視 ・施設の新規開設や変更に伴う現地調査及び医療法に基づく立入検査 ・診療所及び助産所に関する医療機能情報の報告に関する事務 ・苦情、相談に伴う立入検査(広告違反等)					
主な取り組み内容の達成度	↓	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点、悪かった点など	新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の計画通りに病院等への立入検査を実施することができなかった。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	医療機関への適切な助言・指導を行うことで、適正な医療を行う場にふさわしいものとする事ができる。			
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	医療監視計画に基づき、年度ごとに実施すべき対象施設数を調整し実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により計画通りの実施が困難な状況である。		環境変化、障害、課題等解決のため、R4年度で取り組む改善策		コロナ禍においても、感染症対策、医療安全対策等医療機関等が適正な医療が提供できるよう、計画的に監視指導を行う。	
R4年度の目標	医療監視計画に基づき、立入検査を実施し、適正な管理が行われているかを確認することにより、安全に医療を受けられる場にふさわしいものとなるよう指導する。また、施術所の広告規制について、厚生労働省の検討による動きを確認しつつ、適切に対応する。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		・医療機関への立入検査 ・施設の開設や変更等に関する申請、届出等の審査や現地調査 ・医療法人に関する認可や届出等の審査や事業報告書の閲覧等に関する事務 ・医療機能情報の報告に関する事務 ・苦情、相談等に伴う立入検査等	

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	医業指導担当	連絡先	911-1805	
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リダー名	主幹	宮崎 貞守	担当者名	副主幹 重松 光也
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	医業指導担当	連絡先	911-1805	
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リダー名	副主幹	宮崎 貞守	担当者名	主査 重松 光也

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	13323	衛生検査所精度管理事業	事業性質	1-4:自治事務(義務規定あり)	事業区分	1:直営
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる			重点プロジェクト	-	
施策	医療体制の整備			主な取り組み	-	
主な取り組み	地域医療体制の充実		市長公約	-		
取り組みの柱	市民にとって必要な医療機関の情報を適切に提供するとともに、医療従事者の資質を向上させることで、安心して安全な医療体制の充実に図ります。			-		
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	臨床検査技師等に関する法律第20条の3第1項					
事業の目的(どのような状態にするか)	医療機関から検体検査を受託している登録衛生検査所の検査精度を向上させることを目的とする。					
背景(どのような経緯で開始したか)	保健所設置市となった平成10年度から、衛生検査所での検査精度を向上させるため、衛生検査所精度管理事業として開始し、現在に至っている。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	対象:衛生検査所、愛媛県 事業内容: <立入検査(松山市単独)> ・松山市衛生検査所精度管理専門委員設置要領に基づき、学識経験者等を専門委員(6名)を設置し、施設の精度管理に関して助言を受けている。 ・衛生検査所への立入検査(専門委員の同行、既知検体持込) <衛生検査所精度管理事業(愛媛県と合同実施、事業負担金を愛媛県に支出)> ・外部管理事業(年1回) オープン調査(既知検体の測定を実施、施設間の精度管理状況を確認)、ブラインド調査(抜き打ち検査による精度確認) ・精度管理責任者会議(年1回) 外部精度管理事業の説明及び精度管理責任者に対して講習を実施、精度管理の向上を図る。 ・精度管理専門委員会 専門委員(6名)に出席いただき、外部精度管理の実施内容に係る助言を、事業取組に反映させている。					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由			
始期・終期(年度)	平成 12	~	令和 4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計		衛生費	項	保健所費	目	保健所総務費	R3予算措置時期	当初	
		款	目								
		R2年度				R3年度		R4年度			
現計予算額(A)(単位:千円)						222		224		223	
決算額(B)(単位:千円)						199		209			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳		国支出金				0		0		0	
		県支出金				0		0		0	
		市債					0		0		0
		その他					0		80		0
		一般財源				199		129		223	
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算						負担金:159千円 消耗品費:20千円 報酬:30千円		負担金:178千円 消耗品費:25千円 報酬:20千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等						特記事項なし		特記事項なし			
予算執行残額(単位:千円)		(A)-(B)				23		15			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取組内容	・衛生検査所への立入検査を3施設に対して実施。 ・愛媛県と共同で外部精度管理事業等を実施し、施設での検体検査の精度管理の向上を図る。					
主な取組内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	衛生検査所への立入検査や精度管理事業を行うことにより、法令順守、精度管理の向上につながり、市民の医療の質の向上が図られている。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	法に基づく施設への立入検査や精度管理事業を行うことにより、施設での精度管理の向上につながっており、医療機関での安心で安全な医療の提供に寄与している。			
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	コロナ禍であり、衛生検査所の検査は重要であり、立入検査等で確認する必要がある。		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策	立入検査等で精度管理の状況を確認する。		
R4年度の目標	・衛生検査所への立入検査を3施設に対して実施する。 ・愛媛県と共同で外部管理事業等を実施、施設での精度管理の向上を図る。		R4年度の主な取組内容(予定含む)	・衛生検査所への立入検査を実施する。 ・愛媛県と共同で外部管理事業等を実施、施設での精度管理の向上を図る。		



令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業課	担当グループ名	医業指導担当	連絡先	911-1865				
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リダ-名	主幹	宮崎 貞守	担当者名	副主幹	山岡 美佐	主任	谷尾 貴子
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業課	担当グループ名	医業指導担当	連絡先	911-1805				
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リダ-名	副主幹	宮崎 貞守	担当者名	副主幹	三好 喜代	主査	重松 光也

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	13323	医療安全支援センター運営事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	生涯にわたって安心な暮らしをつくる			重点プロジェクト	-	
施策	医療体制の整備			主な取り組み	-	
主な取り組み	地域医療体制の充実		市長公約	-		
取り組みの柱	市民にとって必要な医療機関の情報を適切に提供するとともに、医療従事者の資質を向上することで、安心で安全な医療体制の充実を図ります。			-		
総合戦略	基本目標	-		取組み	-	
	政策	-			-	
	施策	-			-	
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	医療法第6条の13第1項					
事業の目的(どのような状態にするか)	医療法第6条の13第1項の規定に基づき、医療に関する患者及び住民の苦情・相談に対応し、医療提供施設に対する助言、情報提供及び研修を行うとともに、患者及び住民に対する助言及び情報提供を行い、意識啓発や医療安全を推進することによって、住民の医療に対する信頼を確保することを目的とする。					
背景(どのような経緯で開始したか)	平成11年に起こった肺手術と心臓手術の患者を取り違えて手術をしてしまった大学病院での事故や、看護師が消毒液とペリン加生理食塩水を取り違えて静脈内に投与し患者が死亡した事故が、「医療安全」を見直さすきっかけとなり、平成15年から順次、「医療安全支援センター」を都道府県、保健所設置市等に設置することとなった。本市も平成16年に「患者の声相談窓口」を開設し、平成19年に松山市医療安全支援センターを設置し、医療安全の推進に取り組んでいる。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	対象:市民、医療提供機関、関係機関 事業内容 ・「患者の声相談窓口」で、患者・家族からの医療に関する苦情・相談に対応する。 ・医療機関への情報提供、助言を行い、「医療安全対策講習会」を実施し、医療従事者の資質向上に努める。 ・リスクマネージャー等研修及び情報交換会を開催し、医療機関等と連携を図る。 ・「笑顔のまつり まちかど講座」にて「賢い患者さんになるために」というテーマで、医療安全について周知啓発する。 ・「医療安全推進協議会」を開催し、医療安全について専門委員等から意見を聴取する。					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由			
始期・終期(年度)	平成 16	~	令和 4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費	項	保健所費	目	保健所総務費	R3 予算措置時期	当初	
				R2年度		R3年度		R4年度			
現計予算額(A)(単位:千円)						638		638		627	
決算額(B)(単位:千円)						175		191			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳			国支出金			0		0		0	
			県支出金			0		0		0	
			市債			0		0		0	0
			その他			0		0		0	0
			一般財源			175		191		191	
主な経費(単位:千円) ※R3→決算、R4→予算						印刷製本費:61 報償費:58		旅費:243 報償費:107			
特記事項(単位:千円) ※繰越、補正、流用、事業統合等						流用による減:10					
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)			463		447			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>「患者の声相談窓口」で、市民からの医療相談に応じる。</li> <li>医療安全推進協議会の運営。</li> <li>医療安全対策講習会開催。</li> <li>リスクマネージャー等研修及び情報交換会の開催。</li> <li>庁内相談担当者会開催。</li> <li>「まちかど講座「賢い患者さんになるために」</li> </ul>					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点、悪かった点など	医療安全支援センターを設置することにより、医療提供施設の医療安全が推進され、市民に対し、安全な医療の提供ができる。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	市民からの相談では適切な医療のかかり方を啓発し、医療提供施設に対しては医療安全の推進を促すことにより、必要な市民が適切な医療機関で適切な治療を受けることができる医療体制の整備につながる。	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>「患者の声相談窓口」に寄せられる医療相談は困難かつ複雑なものが増加しており、相談に苦慮することがある。</li> <li>医療相談ではない内容の相談も寄せられ、関係部署との連携がより必要になっている。</li> <li>行政機関に医療安全支援センターが設置され、医療安全対策の取組みが定着してきたが、今後は、医療機関とのネットワークを作り、連携していく事が課題。</li> <li>新型コロナウイルスの感染の広がりに伴い、医療機関の一層の院内感染対策の徹底が求められる。</li> </ul>			環境変化、障害、課題等解決のため、R4年度で取り組む改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談対応に関する研修を受講するなど、相談対応に生かしていく。</li> <li>医療機関への院内感染防止のための対策を充実させて、一層の医療安全施策の充実を図る。</li> <li>医療機関を対象とした研修会を実施し、情報交換を行う。</li> <li>医療安全支援センターの市民への周知を図る。</li> </ul>	
R4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>「患者の声相談窓口」及び「お医者さんにかかる10箇条」の市民への周知</li> <li>「患者の声相談窓口」では、相談者の話をよく聞き、適正な対応を心がける。</li> <li>新型コロナウイルス感染拡大に伴い、医療機関の安全対策を支援する。</li> </ul>			R4年度の主な取り組み内容(予定含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「患者の声相談窓口」で、市民からの医療相談に応じる</li> <li>医療安全推進協議会の運営</li> <li>医療安全対策講習会の開催</li> <li>リスクマネージャー等研修及び情報交換会開催</li> <li>医療の相談対応に関する担当者会の開催</li> <li>実績報告書の作成</li> </ul>	



【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)  
 【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	患者の声相談窓口等 啓発リーフレット配布数	部	目標値	—	1,500	1,500	1,500	1,500	目標値	1,500	
			実績値	1,711	497	491			達成年度	R4年度	
		%	達成度	—	33%	33%					
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)							最終目標値の 設定の考え方		
	本指標の設定理由	医療に関する相談を必要とする市民の当相談窓口の認知向上を目指す。									
	活動指標		目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類								最終目標値の 設定の考え方		
	本指標の設定理由										
活動指標		目標値							目標値		
		実績値							達成年度		
	%	達成度									
指標の種類								最終目標値の 設定の考え方			
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	患者の声相談窓口 相談数	件	目標値	944	933	924	887	887	目標値	887	
			実績値	933	924	887			達成年度	R4年度	
		%	達成度	99	99	96					
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)							最終目標値の 設定の考え方		
	本指標の設定理由	医療に関する相談を必要とする市民が、利用できたかどうかを見る。									
	成果指標		目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類								最終目標値の 設定の考え方		
	本指標の設定理由										
成果指標		目標値							目標値		
		実績値							達成年度		
	%	達成度									
指標の種類								最終目標値の 設定の考え方			
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	作成したリーフレットをあらゆる機会を利用して配布することにより、多数の市民への啓発を行っているが、R3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、医療安全対策講習会がリモート研修になったり、研修会が中止になるなどし、リーフレット配布の機会が少なくなり、目標には達しなかった。									
	成果指標	市民に「患者の声相談窓口」が周知され、医療に関する相談を必要としている市民が利用できる状況となっている。									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容	新型コロナウイルスの感染の広がりに伴い、陽性者が受診していた場合に、施設内での院内感染対策の取り組み状況を確認することにより、医療提供施設の医療安全に貢献した。										

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部等長名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リーダー名	清水 太郎	担当者名	主任	吉田 幸子	主事	大西 景子
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部等長名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リーダー名	主幹	担当者名	主事	大西 景子		

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(実施コード)	19999	一般事務費	事業性質	2:その他	事業区分	7:その他	
基本目標	健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】		笑顔プログラム	個別プログラム	-		
政策	その他			重点プロジェクト	-		
施策	その他		市長公約	主な取り組み	-		
主な取り組み	その他						
取り組みの柱	その他		取組み	-			
総合戦略	基本目標	-					
	政策	-					
	施策	-					
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し				
根拠法令,条例,個別計画等							
事業の目的(どのような状態にするか)	医事業事課業務および保健所運営を効率的に遂行することを目的とする。						
背景(どのような経緯で開始したか)	保健所運営及び医事業事課業務の事務的な経費を計上しているため、各種事業を実施する上で必須となるものである。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	保健所職員に対して、保健所運営及び医事業事課業務を行うための一般的な事務を行う。 主に、保健所5課の会計年度任用職員(一般事務補助)の雇用や、地域保健法第11条に基づく保健所運営協議会の開催、その他各事業実施に関する事務的補助を行う。 また、保健所長会や衛生部局長会、政令市部会等を通じ、全国各市の保健・公衆衛生事業の情報収集、意見交換等を行い、保健所運営に反映する。						
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合,基準や金額等 「無し」の場合,その理由				
始期・終期(年度)	令和	2	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費		保健所費		R3予算措置時期	当初
				目	項	目	項		
				R2年度		R3年度		R4年度	
現計予算額(A)(単位:千円)				2,023		1,919		1,967	
決算額(B)(単位:千円)				965		879			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金			0		0		0	
	県支出金			0		0		0	
	市債			0		0		0	
	その他			0		0		0	
	一般財源			965		879		1,967	
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算						需用費 479千円 旅費 115千円		需用費 496千円 旅費 802千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等									
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		1,058		1,040	

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	各事業実施に関する事務的補助を行った。					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	円滑に保健所業務が行えたため		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	4:どちらもない	左記の理由	当課を含む保健所内各課の業務を遂行するための事務的な部分の予算であるため、明確な貢献度は示せない。			
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	3	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	保健所運営協議会については、会議が開催できない場合を想定した規則等の整備が必要。			環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		保健所運営協議会について、会議を開催できない場合の運営方法について検討する。
R4年度の目標	保健所運営及び医事業事課業務を効率的に遂行する。			R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		R3年度に引き続き、地域保健法第11条に基づく保健所運営協議会の開催、その他各事業実施に関する事務的補助を行う。

令和4年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部長等名	高木 祝二	課等長名	奥村 高史	リ-ダ-名	副主幹	清水 太郎	担当者名	副主幹	柏木 康宏	
令和3年度	部局等名	保健福祉部	課等名	医事業事課	担当グループ名	救急医療担当	連絡先	911-1804			
	部長等名	北川 敦史	課等長名	奥村 高史	リ-ダ-名	主幹	山内 利博	担当者名	主幹	山内 利博	主査 柏木 康宏

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	21223	災害用医薬品確保事業				事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	2:委託
基本目標	生活に安らぎのあるまち【安全・安心】				笑顔プログラム	311	個別プログラム	笑顔を守るプログラム	
政策	災害等に強いまちをつくる						重点プロジェクト	みんなで守り助け合う「安心して暮らせるまちづくり」プロジェクト	
施策	災害発生時における体制の整備				市長公約		主な取り組み	協働による防災活動等の推進	
主な取り組み	災害発生時の体制づくり								
取り組みの柱	医療関係団体などと連携し、マニュアルの作成や合同訓練などに取り組むことで、災害発生時に速やかに対応できる医療救護体制を強化します。								
総合戦略	4222	基本目標	④住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり)		取組み		② 全庁的な防災・危機管理体制の不断の見直しを行うとともに、災害時の避難場所の整備や備蓄物資、必要な資機材の整備を進めます。また、災害時の道路遮断の防止や電力・通信網の切断被害の軽減など、都市災害の防止のため、関係機関との協議の上で計画的に無電柱化を進めます。		
		政策	②生活の質と都市力の向上						
		施策	②安全・安心な暮らしの推進						
総合計画の実施計画掲載有無(R3)		1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し					
根拠法令,条例,個別計画等									
事業の目的(どのような状態にするか)	大規模災害発生時に迅速に医療救護活動を実施するため、救護所等で必要な医薬品を確保する。								
背景(どのような経緯で開始したか)	市が災害用医薬品を備蓄すると使用しなかった場合に期限切れの医薬品が廃棄となる。								
対象・事業内容(誰に対して、何をするのか)	災害時に医療救護活動で使用する医薬品の備蓄・管理を松山薬剤師会に委託する。								
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない		「有り」の場合,基準や金額等 「無し」の場合,その理由					
始期・終期(年度)	平成	30	~	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費	項	保健衛生費	目	診療所費	R3 予算措置時期	当初
				R2年度			R3年度			R4年度
現計予算額(A)(単位:千円)				1,100			1,150			1,200
決算額(B)(単位:千円)				1,100			1,150			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金				0		0		0	
	県支出金				0		0		0	
	市債				0		0		0	
	その他				0		0		0	
	一般財源				1,100		1,150		1,200	
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算							委託料1,150千円		委託料1,200千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等										
予算執行残額(単位:千円)		(A)-(B)		0			0			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	松山薬剤師会と災害協定を締結し、委託を行った。									
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など		松山薬剤師会と災害協定を締結し、委託を行った。				
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		医療救護活動に使用する医薬品を確保した。					
事業の公共性	必要性		2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない		公益性		1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない	
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	全国的な医薬品の供給不足の影響で、手配が困難となる医薬品が生じており、備蓄医薬品と流通在庫との入れ替えがうまくできないケースが起こっている。そこで、医薬品の製造・流通状況も考慮し、必要な備蓄医薬品の種類・数量等の見直しを関係機関と検討する。				環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		多くの医療従事者が知っていて使いやすい医薬品で、かつ多く市場に流通し、備蓄医薬品の廃棄ロスが極力少なくなるような医薬品への入れ替えを関係機関と協議のうえ、市内拠点に備蓄する。			
R4年度の目標	備蓄医薬品の内容を見直し、令和5年後からの管理(備蓄医薬品の廃棄ロスを削減するための、在庫分と流通分との入れ替え)がしやすくなるよう、薬剤師会と連携して市内薬局等と体制を構築する。				R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		松山薬剤師会や松山市医師会など関係機関と連携し、備蓄医薬品の見直し、拡充を図る。			

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)  
 【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	備蓄医薬品(配備)	セット	目標値	10	15	20	-	-	目標値	25	
			実績値	10	15	15			達成年度	R4年度	
		%	達成度	100	100	0					
	指標の種類	3:累計での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方	効率的な運用方法や数量を検討し、25セット分を上限に配備する。				
	本指標の設定理由	医療救護所に対応する備蓄医薬品の数量									
	備蓄医薬品(維持)	セット	目標値				15	15	目標値	15	
			実績値						達成年度	R5年度	
		%	達成度								
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)				最終目標値の設定の考え方	当初、25セット分を上限に配備することとしていたが、令和3年度に医師会や薬剤師会と効率的な運用方法を検討し、既に配備している15セットを維持しつつ、期限切れでの廃棄が少ない管理体制になるよう医薬品の入替えを行うこととした。				
	本指標の設定理由	医療救護所に対応する備蓄医薬品の数量									
		目標値						目標値			
		実績値						達成年度			
	%	達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)		目標値						目標値			
		実績値						達成年度			
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
		目標値						目標値			
		実績値						達成年度			
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
	目標値						目標値				
	実績値						達成年度				
	%	達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	災害用医薬品の備蓄を図る。									
	成果指標										
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											